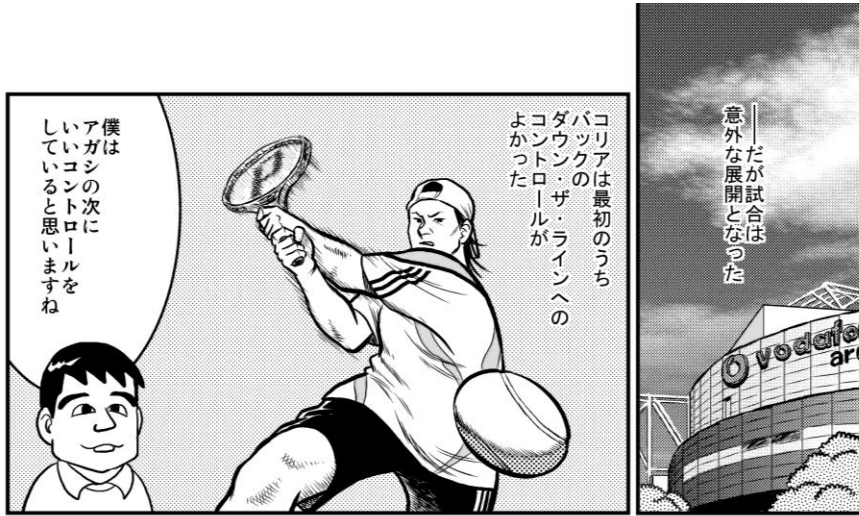


ミニテニス

監修・協力 ● 丸山 薫 漫画 ● 石川正順

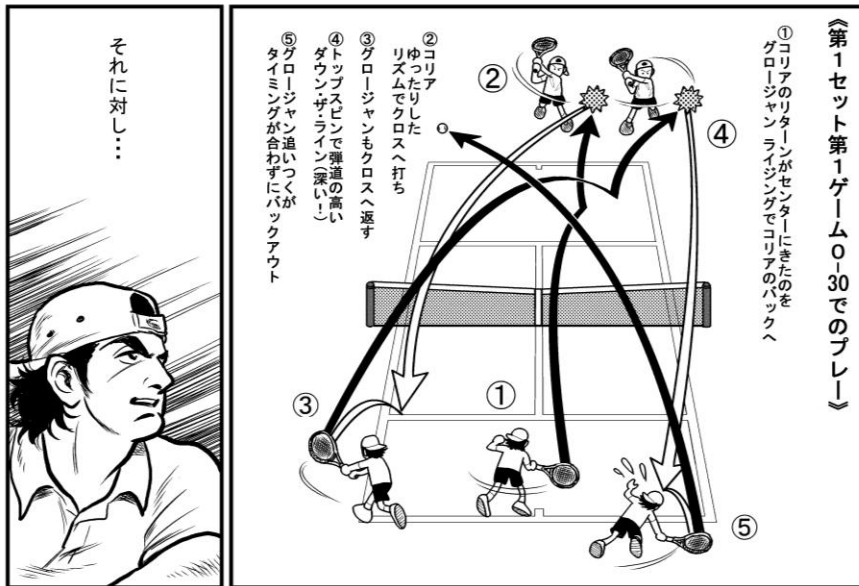


コリアは最初のうちバックのダウン・ザ・ラインへよかった

「だが試合は意外な展開となった」



スピードを抜いて深くコントロールされたバックのダウン・ザ・ラインはカウンターが打ちづらく

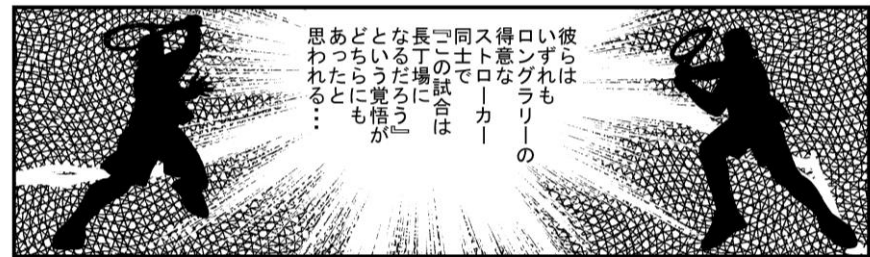
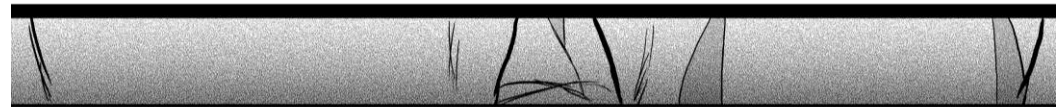


- 《第1セット第1ゲーム0-30でのプレー》
- ① コリアのリターンがセンターにきつたのをグロージャンラインでバックへ
 - ② コリア ゆったりしたリズムでクロスへ打ち
 - ③ グロージャンもクロスへ返す
 - ④ トップスピンドで弾道の高いダウン・ザ・ライン(深い)
 - ⑤ グロージャン追いつくがバックアウト

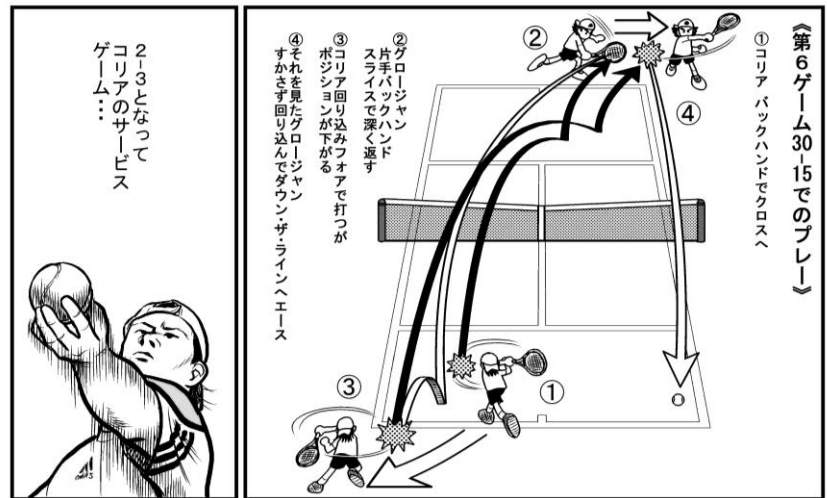
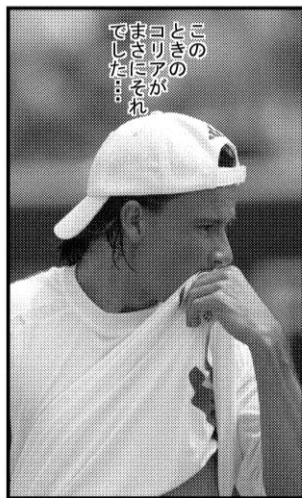
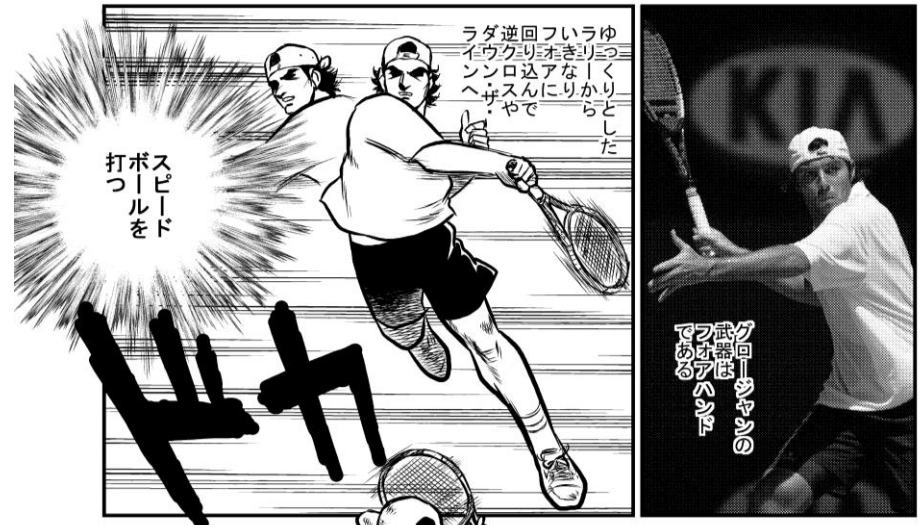


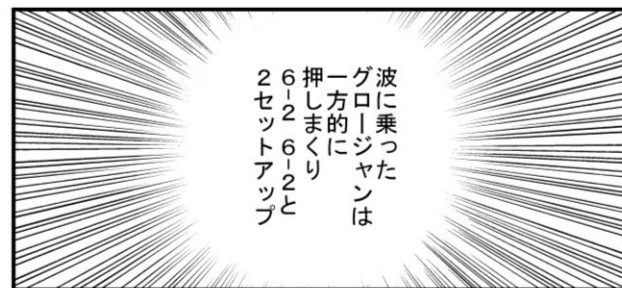
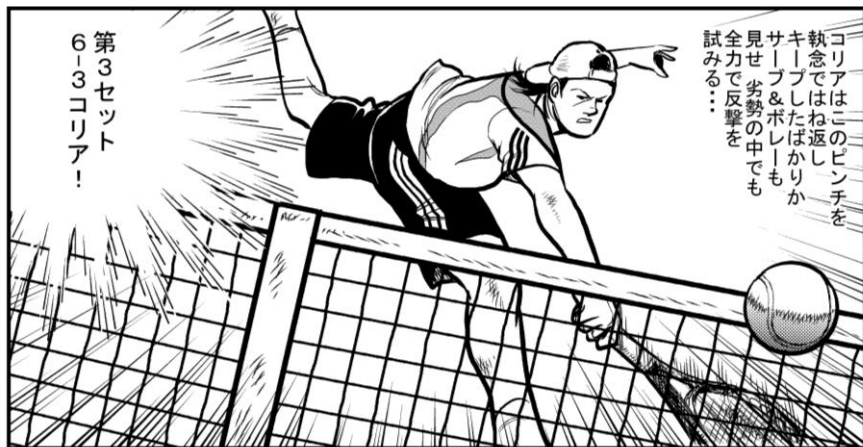
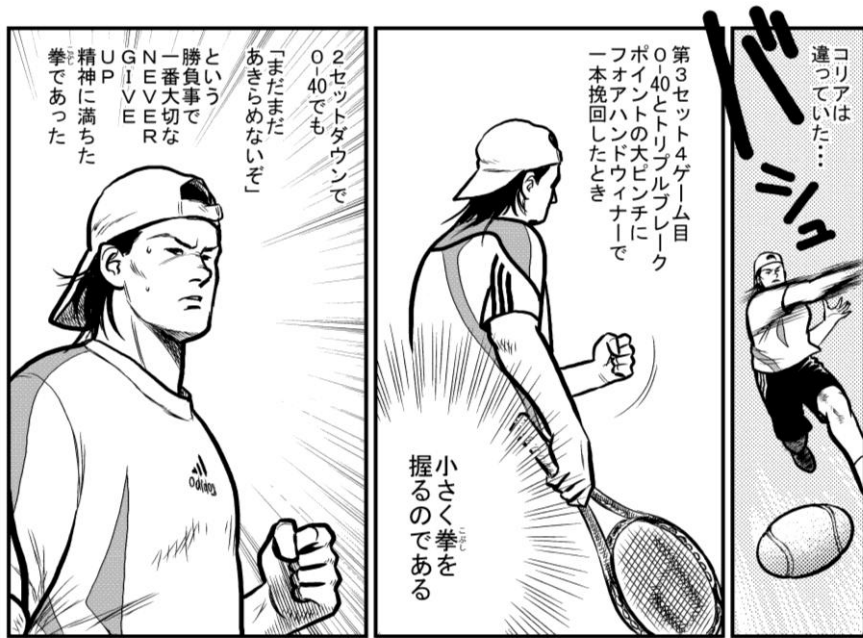
セバスチャン・グロージャン (フランス)

ギレルモ・コリア (アルゼンチン)



彼らはいずれもロングラリーの得意なストロークーカー同士で「この試合は長丁場になるだろう」という覚悟がどちらにもあったと思われる:







6-2 6-1
3-6 6-4
グロージャン

最後まで
サシで
決めたぜ！



グロージャンの
30mほどの
サシで
が決め手
となり



コリア根性で
4-5まで
追上げるが



会場は
こんなカッパ
おぬちやんで
いばいさ

この日の気温は
35℃を超える厳しさ...



これは大型プレーヤー
と戦うときに非常に
有効な手段だと
思いますよ

「ここではリターンが
足もとにはこないだろう」
と予測してサーブを
ダッシュしています



ファーストサーブの
調子がよかった
がサーブエース7本
のが強みだった

グロージャンは
フォアハンドの
回り込みから放つ
フラットショットの
威力に加え...



この日
23本
ダブルフォルト



第4セット
1-5となった
サーブゲームで



猛暑の影響は
リード
されている
コリアに徐々に
出始め...

ロングラリーの
あとシメスの
ヒモを直し
少しでも
休むコリア

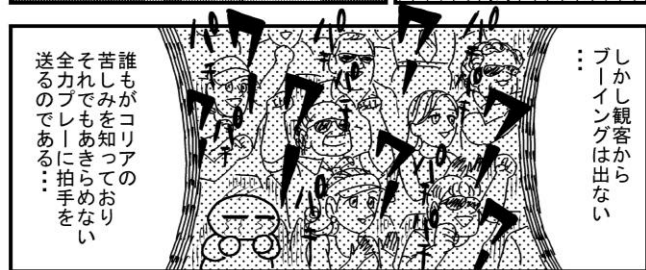
ラケットを
直接地面
に置かない
のは
さすが



この試合
アンフォースドエラー
の数は48対48だが
ダブルフォルト23本
を差し引くと
ラリーのミスは
圧倒的に少なかった
のである

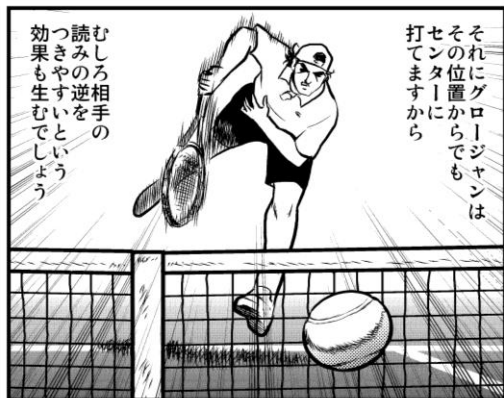
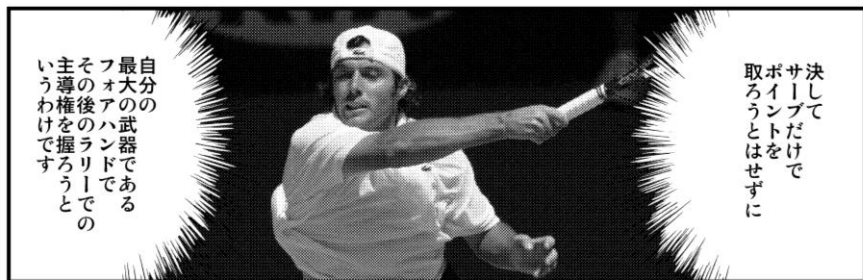


一方コリアは
ラケットワークや
ショット面の強さ
ショットの
安定性は優れて
いるが
課題はやはり
サーブである



誰もがコリアの
苦しみを知っており
それでもあきらめない
全力プレーに拍手を
送るのである...

しかし観客から
ブーイングは出ない



で...



私山堂の 今回は ちよど 読むよ

スバと解決このなあ

